

第一日曜日
教会学校 9:00～
主日第一礼拝 9:00～
主日第二礼拝 10:30～

その他の日曜日
教会学校 9:00～
聖書を読む会 9:00～
主日礼拝 10:30～

日本基督教団 麻布南部坂教会月報

2018 (平成30年) 8. 12

牧師 松谷 祐二

〒106-0047 東京都港区南麻布4-5-6 Tel & Fax 03 (3473) 1276
E-mail church@nanbuzaka.com http://www.nanbuzaka.com/

聖書と祈り会
毎週水曜日 10:30～
成人会
第3日曜日 礼拝後
婦人会
第4日曜日 礼拝後
教会附属 南部坂幼稚園

印刷 有限会社 創文社 Tel (3491) 8321

「平和の神、全きお方のものとして」 (テサロニケの信徒への手紙一 「十一 終」)

牧師 松谷 祐二

テサロニケの信徒への手紙一 第五章二二～二八節

どうか、平和の神御自身が、あなたがたを全く聖なる者としてくださいますように。また、あなたがたの霊も魂も体も何一つ欠けたところのないものとして守り、わたしたちの主イエス・キリストの来られるとき、非のうちどころのないものとしてくださいますように。あなたがたをお招きになった方は、真実で、必ずそのとおりにしてください。兄弟たち、わたしたちのためにも祈ってください。すべての兄弟たちに、聖なる口づけによって挨拶をしない。この手紙をすべての兄弟たちに読んで聞かせるように、わたしは主によって強く命じます。わたしたちの主イエス・キリストの恵みが、あなたがたと共にあるように。

(新共同訳聖書)

テサロニケの町にいる兄弟(信徒)たちに宛てて綴られてきたパウロの手紙。この一連の祈りとあいさつで結びです。その中で、しきりに繰り返されている一つの主題があります。完全さ、包括性という主題です。「あなたがたを全く聖なる者としてくださいますように」「霊も魂も体も何一つ欠けたところのないものとして」「非のうちどころのないものとして」「すべての兄弟たちに：挨拶をしない」「すべての兄弟たちに：読んで聞かせるように」。

実は、冒頭の「平和の神」という言葉そのものも、完全さ、包括性という主題と関係しています。日本語の「平和」の語感と、ユダヤ人であるパウロの用いた「平和」の語感は異なります。ヘブライ語の「平和(シャローム)」は、争いのない状態というよりも、完全であること、すべてが満

たされていて、全く傷や欠けがないことを含意しています。そこから、健在、順調、繁栄、幸福、平安、救済といった意味に展開されて用いられる言葉です。

そのような「平和(シャローム)」はどこから来るのかと言え、ただ神からのみ来ます。神御自身が、完全な方、満ち満ちる方、欠けない方だからです。御自身の「平和」を、わたしは人間に与えてくださる方、そのご存在、ご臨在によって、わたしたちを満たしてください。そのような方が「平和の神」なのです。

パウロは願います。「どうか、平和の神御自身が、あなたがたを全く聖なる者としてくださいますように。」「神御自身が、「全く聖なる方」です。だから、イエス・キリストを信じてこの神のものとした人は、「全く聖なる者」となるべきなのです。「あなたがたはわたしのものとなり、聖なる者となりなさい。主なるわたしは聖なる者だからである。わたしはあなたたちをわたしのものとするため諸国の民から区別したのである。」(レビ記 第二〇章二六節)

「だから、あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい。」(イエス・キリストの言葉、マタイによる福音書 第五章四八節)

しかし、わたしたちのような中途半端な者、欠点だらけの者が、神にふさわしい「聖なる者」「完全な者」に、一体どうしてなれるでしょうか。神が御自身の力でわたしたちを変えてくださる以外に、わたしたちを新たに造り替え、刷新してくださる以外に、可能性はありません。しかし神は、そんな風にしてくださるでしょうか。——いいえ、もう、始めてくださっています。わたしたちが主イエス・キリストを信じ始めたことすれば、そのこと自体が、神がわたしたちを新たに造り替える「再創造」とも言える大仕事を始めてくださったという、神の御手がすでにわたしに触れている、というこの証拠です。

神がイエス・キリストを通してわたしたちを救い出し、わたしたちを「全く聖なる者」にしよう

と、喜んでその仕事に着手してくださいました。そういう「平和の神」に、パウロは信頼して祈るのです。「また、あなたがたの霊も魂も体も何一つ欠けたところのないものとして守り、わたしたちの主イエス・キリストの来られるとき、非のうちどころのないものとしてくださいますように。あなたがたをお招きになった方は、真実で、必ずそのとおりにしてください。」

こうして新たにされ、「全く聖なる者」としていただくべきなのは、手紙の宛先の信徒たちだけではありません。書き手のパウロや仲間のシルワノ、テモテも、そうしていただかねばなりません。だからパウロは願います、「兄弟たち、わたしたちのためにも祈ってください」と。

手紙の送り手も受け手も、皆ひとしく、こうして神によって再創造されていく幸いな過程にいる者である。イエス・キリストを信じて洗礼を受けた者は、皆がそういう者として互いの存在を喜び、愛し合うべきである。そういう認識から、パウロは勧めます。「すべての兄弟たちに、聖なる口づけによって挨拶をしない。」この勧めの焦点は、「聖なる口づけによる挨拶」とは何で、現代の教会にもその習慣を再現すべきかどうか、といったことにはありません。重要なのは、キリスト者として互いに愛し合う愛を「すべての兄弟たちに」広げること、一部の人たちだけをえり好みして愛し、他の人たちには無関心になるのではなく、神の完全性・包括性にふさわしく、すべての兄弟たちに神の愛が満ちるようにすることです。

同じ理由から、パウロは「すべての兄弟たちに」この手紙を読んで聞かせることを命じます。主イエスの権威に基づいて、強く命じることさえします。自分の手紙を、パウロは単なる私信とは考えていません。手紙の今までの内容を通して、すべての兄弟たちが、ひとりも漏れなく、神の恵みで満たされるようにと、主イエス御自身がそう望んでいらつしやる。パウロはそう確信しているのです。

「わたしたちの主イエス・キリストの恵みが、あなたがたと共にあるように。」

「月も星も、あなたが配置なさったもの」

松谷 佳子

私の大好きな聖句を一つご紹介いたします。

詩編8編 2節〜10節

主よ、わたしたちの主よ

あなたの御名は、いかに力強く

全地に満ちていることでしょう。

天に輝くあなたの威光をたたえます

幼子、乳飲み子の口によって。

あなたは刃向かう者に向かつて咎を築き

報復する敵を絶ち滅ぼされます。

あなたの天を、あなたの指の業を

わたしは仰ぎます。

月も、星も、あなたが配置なさったもの。

そのあなたが御心に留めてくださるとは

人間は何ものなのでしょう。

人の子は何ものなのでしょう

あなたが顧みてくださるとは。

神に僅かに劣るものとして人を造り

なお、栄光と威光を冠としていただけ

御手によって造られたものをすべて治め

るように

その足もとに置かれました。

羊も牛も、野の獣も

空の鳥、海の魚、海路を渡るものも。

主よ、わたしたちの主よ

あなたの御名は、いかに力強く

全地に満ちていることでしょう。

目が悪いので、一等星以外は、あまり星

が見えませんが、オリオン座が好きで、冬

になると夕食後に30分ぐらい（寒いので外

には出ません）、東の部屋の窓辺に仰向け

に寝転んで、部屋を真っ暗にして、カーテ

ンを開けて夜空を見上げるのが、学生のこ

ろの私のお気に入りの時間でした。

麻布は明るくて、空を見上げてあまり

星が見えません。

部屋からは、オリオン座を見あげようと

しても、東の空はドイツ大使館の光と有栖川公園の外灯で眩しくて、あまり見えません。

星空よりも、犬の散歩で見る東京タワー

と六本木ヒルズの折々のライトアップが楽し

しみになってこの頃でした。（東京タ

ワーの夏仕様は白がくつきりと涼しげな感

じで、冬はもつとオレンジが強く華やか

です。時々七色になったりしています）ま

た六本木ヒルズのライトアップも日によつ

て少し違うことに気がつくのが面白いです。

けれども、子供の視力が落ちたことも

あって、これを機に星空を見る機会を増や

したいと思つて、最近はこちらよく夜空

を見上げる機会をもっています。

外に出て、マンションが南側にたった

こともあって、ますます光が眩しくあまり

星を見つけれませんが、それでも、北極

星や北斗七星、冬にはオリオンが見えまし

た。スピカもはつきりと、ついこの間は、

ISS（国際宇宙ステーション）が移動し

ていくのを見つけて興奮しました。結構早

く動くのであつたという間のことでしたが、

今は夏の大三角形が良く見えます。蠍座も

見えます。

六本木ヒルズや東京タワーのライトアッ

プを見た後に、南部坂を下るときには、こ

こ最近木星がとて良く輝いています。

さらに先月の31日は火星がそれよりさら

に大きく見えました。夜9時に撮った写真

ですが、園庭からもはつきりと見えてまし

た。

火星を1ヶ月くらい前の夜中に見た時は

もう少し小さかったような気がして、改めて見た時は急に大きく感じて驚きました。青白っぽい木星に比べて、火星は本当に赤くて、それぞれに違いがあつて、美しいものだ、あらためて感じました。

空ばかり見上げて首の筋がおかしくなつ

てしまうことがあります、いつか星空が

降ってくるくらいの場所で観察してみたい

なと思つています。

報 告

*麻布南部坂教会の一〇〇周年（二〇二〇

年）記念誌について、教会員の皆様に、

お一人八〇〇文字程度（より短くとも可）

の原稿をお願いしております。内容は、

一〇〇周年にあつて思うこと、思い出、

詩や短歌など、自由にお考えなさつて結

構です（修正が入ることもありますので、

ご了承ください）。締め切りは今のところ

はまだ設けず、随時募集しております。

ご協力をよろしくお願い致します。

*教会員名簿・電話連絡網（緊急時連絡・

信徒相互牧会用）の改訂版を配布しまし

た。連絡網では、教会員の皆様を六つの

グループに分けてあります。配慮すべき

教会員の消息などありましたら、まず、

その方の所属グループの担当役員までお

知らせください。

*松谷牧師は、七月二十三日（日）〜二十

七日（金）、及び八月十三日（月）〜二十

十一日（火）の期間、夏期休暇となりま

す。

《各部報告 七月度》

成人会

日時 七月十五日 主日礼拝後

場所 教会堂会議室

出席者 七名

開会祈禱 佐藤忠昭兄

内容

一、ヨエル書 全篇を読み、話し合った。

他の預言書とは異なり、イナゴの大襲来、干ばつ等の自然災害を、弱い信仰に對する神の戒めととらえ、恐るべき主の日に裁きがなされ、信じる者のみが救われると預言し、民の真の悔い改めを要求し、神の在る国家再生への姿を鮮明に描いている。

次回・九月三十日 司会は鈴木晋兄

アモス書一〜第六章

黙祷をもって閉会

婦人会

日時 七月二十二日 主日礼拝後

場所 教会堂会議室

出席者 九名

開会祈禱 菊池才知子姉

内容

一、聖書研究「ヨシユア記」 一、二二章

ルベン族、ガド族、マナセ族の半部族

はイスラエルのすべての部族の嗣業の地

が配分された後、既にモーセから受けて

いたヨルダン川東岸の所有地に戻った。

ゲリロトに着いた彼らは一つの大きな祭

壇を築いた。他のイスラエルの民は、ゲ

リロトの祭壇の設置をイスラエルの神に

對する背信とみなし、御怒りを招くこと

を懸念して祭司ピネハスと各部族の家系

指導者と討伐軍を送ることにした。ルベ

ン族、ガド族、マナセ族の半部族は、ヨ

ルダン川の東西両岸に住むイスラエルの

民が主に対する信仰を共有していること

を示す祭壇の模型であると釈明する。祭

司ピネハスと部族指導者たちはこれを良

しとした。

次回 九月二十九日

ヨシユア記二十三、二十四章、八月休会

二、高橋優美子神学生の伝道実習の予定が

報告された。

三、九月第五主日に台所清掃を予定。清掃

項目の予定を立てるため、附属幼稚園

職員の方に清掃済みの箇所を確認す

る。

閉会祈禱 各自順次小祈禱



園庭から見た7月31日の火星